

(添付様式6)

沢新田地域を守る会 体制整備構想(案)

1. 共同活動の現状

(1) 活動組織の構成員の役割分担

構成員	主な役割
農業者	基礎部分、誘導部分(農地・水向上活動)を生産組合と連携して実施する なお、畦畔・農用地法面等の草刈りや、それぞれの農用地周りの小水路の泥上げ等の活動は、個々の農業者が実施する。
生産組合	基礎部分、誘導部分(農地・水向上活動)を農業者と連携して実施する。 主な活動は施設の機能診断、支線水路の泥上げ、草刈、配水操作、目地詰めや路肩・法面の補修、農道の砂利補充等を実施する。
自治会	農村環境向上活動の主体として各種団体を統率し、農村集落維持のため、老人クラブ・PTA・女性の会と連携して活動を実施する。
老人クラブ	農村環境向上活動のうち、集落周辺の道水路周辺への植栽やゴミ拾い等を自治会と連携して実施する。
消防団	誘導部分(農地・水向上活動)で、異常気象後の巡回を生産組合と連携して実施する。
PTA	農村環境向上活動のうち、集落周辺のゴミ拾い等を自治会・女性の会と連携して実施する。
女性の会	農村環境向上活動のうち、集落周辺のゴミ拾い等を自治会・PTAと連携して実施する。
JAたがわ新余目	農地・水向上活動、農村環境向上活動について、指導・助言等の支援を行う。
水土里社最上川	農地・水向上活動、農村環境向上活動について、指導・助言等の支援を行う。

(2) 活動組織の意思決定の方法

議案は出席した構成員の過半数以上により決定することとし、可否同数の場合は、議長が決するところによる。

(3) 活動組織の資金計画

項目	主な交付金の使途の内容	金額(千円)
基礎部分の活動に要する経費	・道路の補修に要する費用(砂利購入費及び重機リース代)、点検・計画策定	2,330千円
誘導部分	農地・水向上活動に要する経費 ・開水路の補修に要する費用(目地詰め、破損箇所 の改修に必要な材料・機材購入費等) ・水利施設(ゲート)の補修に要する費用(腐食防止剤購入費等) ・草刈刃代、機能診断、計画策定	8,300千円
	農村環境向上活動に要する経費 ・景観植物の植栽・管理に要する費用(景観植物の苗購入費等) ・植栽・ゴミ拾い参加者に要する費用(謝金等) ・世代間交流費用等	2,550千円
活動組織の管理運営に要する経費	・活動組織の管理運営に掛かる事務費等(報酬事務用品代等)	2,950千円
合 計		16,130千円
地域全体の環境負荷低減に向けた推進活動に要する経費		600千円
先進的営農支援	先進的取組実施農家への配分に要する経費	9,960千円
	地域環境の保全等のための取組に要する経費	
	交付金の交付事務に要する経費	
合 計		10,560千円

(4) 農地・水・環境保全向上対策の取組み効果と課題等 (中間評価)

【 効果等 : よかったこと 】

- 子供達や老人クラブ、女性の会など年代を超えて取組できたこと
- 施設の改修など、費用のかさむ活動ができたこと
- 景観形成や環境保全に対する意識の向上がみられたこと
- 広報の発行とホームページの開設で活動の周知が図られたこと
- 環境保全型農業への理解から営農支援活動に参画する者が増えていること

【 課題等 : 悪かった事や問題点 】

- 連絡体制の不足から一部役員の負担が大きかったこと
- 交付金の使途範囲が限られており、取組がマンネリ化したこと
- 若い世代の参加する活動が充分にはできなかったこと
- 構成組織の役員以外の非農家の参加が十分ではなかったこと

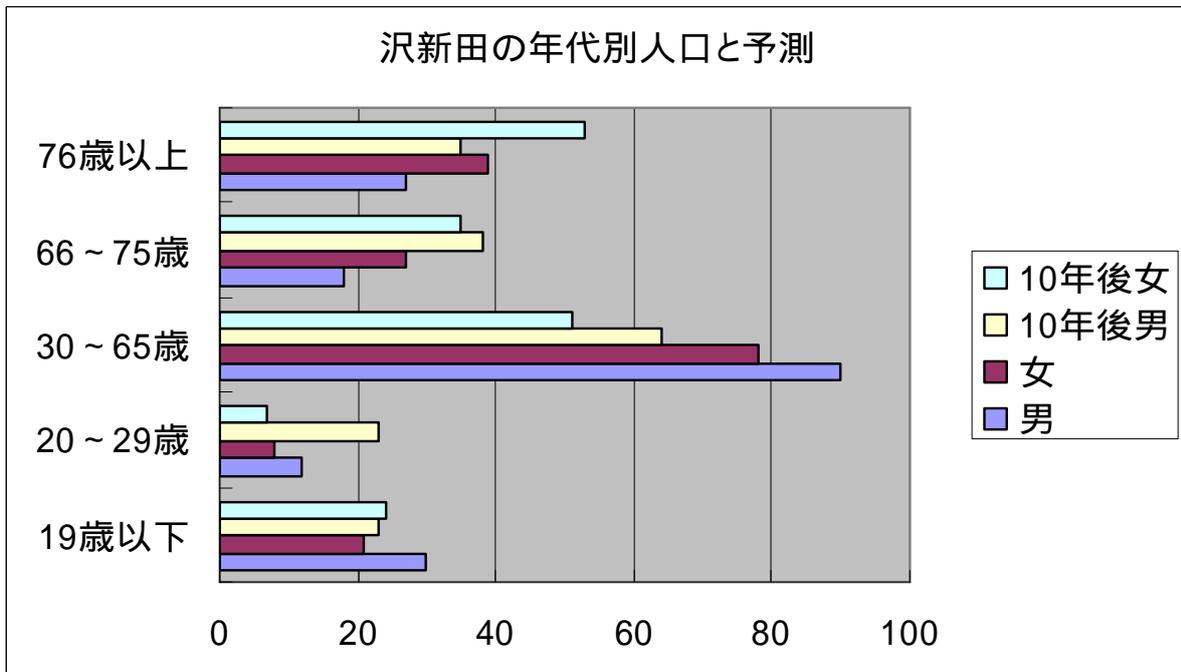
2. 将来の体制の見通し

(1) 活動の担い手の年齢構成等 (現状)

本活動組織では、基礎部分の活動は農業者、生産組合が、農地・水向上活動は農業者、生産組合、消防団が、農村環境向上活動は自治会、老人クラブ、PTA、女性の会が中心となって行っている。

主な担い手の年齢構成等は下表の通り。

構成員	人数(人)	平均年齢(歳)	65歳以上の割合(%)
農業者	40	58	50
生産組合	8	53	0
自治会	350	52	33
老人クラブ	153	-	-
消防団	10	32	0
PTA	23	-	-
女性の会	8	42	0



(2) 高齢化を踏まえた概ね10年後の推定

10年後に、現在65歳以上の担い手が活動に参加できなくなると仮定した場合、本活動組織では約20%の活動人員が減少すると見込まれる。

3. 共同活動の将来像

(1) 当地における農地・水・環境が有する社会共通資本としての役割

この地域は、庄内地方のほぼ真ん中に位置した平坦地であり、農地面積も町内屈指の純農村集落であり、北東には、最上川の豊かな流れがある。古くは、川の氾濫に悩まされた歴史を有するが近代になってからはそれもほぼ解消され、潤沢な水資源の供給と「桜回廊」の整備もなされ秀麗な景観を見せてくれている。

ここに広がる豊かな美田は単に食料を生み出してくれるだけではなく、豪雨時の一時貯留や二酸化炭素の削減にも寄与しているといわれている。

このかけがいのない農地と農業用水や生態系などの環境は人々に潤いやゆとり、やすらぎの心を醸しだしてくれているのである。

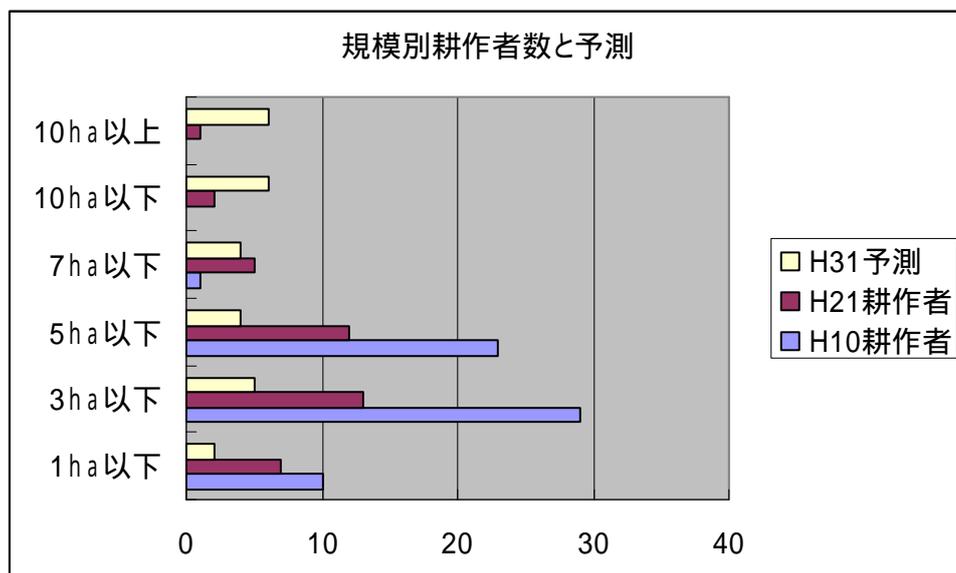
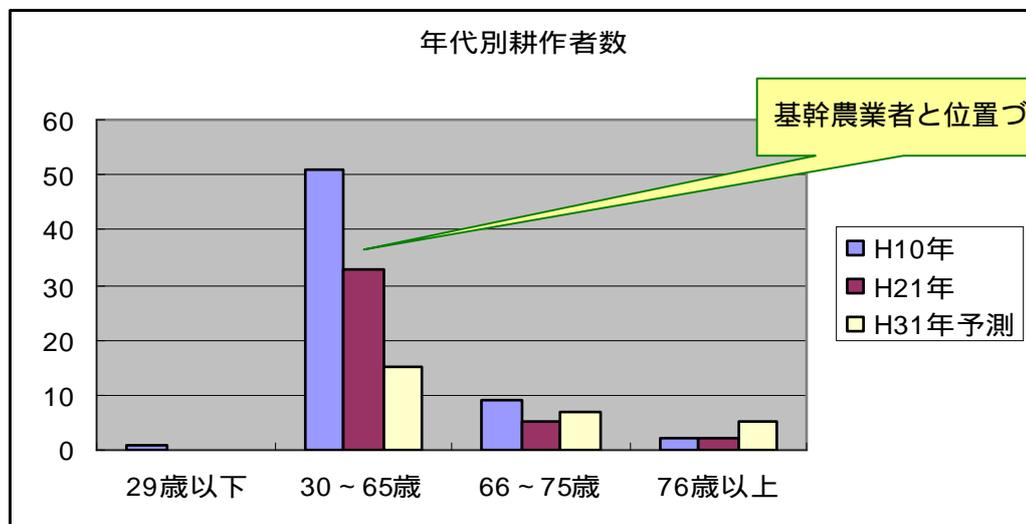
(2) 将来展望

農用地や水資源、それらによる農村環境は農業者だけではなく、集落全ての人々の貴重な宝であると言える。これらを守っていく責任は農家、非農家の別なく地域全体の責務であり、国民的な責務でもあるとも考えられる。

将来的には、少子高齢化により労働人口の減少が避けられないため、若い世代や65歳以上の方々にも活動への理解と参画の気運を醸成する必要がある。

4. 地域農業の担い手の育成・確保

活動組織において主要な役割を果たす農業者のうち、地域農業の担い手となる**おおむね30～65歳の基幹農業者**の育成・確保は、活動組織の体制の強化につながることから、Uターン等も含めてこの育成・確保に努めるとともに、集落営農等の農業法人設立の必要性も考えられる。



具体的な目標は下表の通り。

内 容	現状	10年後目標
基幹農業者の確保(おおむね30～65歳)	36人	15人
新規就農者の確保(Uターン等含む)	0人	5人
5ha以上の基幹農業者への農地利用集積	52ha	100ha
大型機械の共同利用組織(10ha以上共同)	2 組織	3 組織
集落営農等の農業法人	1 法人	3 法人

5. 将来展望を実現するために取り組む具体的方策

活動への理解と協力を得るには周知・啓発が不可欠である、広報活動強化とホームページを利用した地域外への情報発信も継続していく
 景観形成活動には各組織とともに地域全体で取り組む努力をする
 各施設の長寿命化を図るために保守点検に取り組む
 有機栽培等、環境保全に即した農作業体系を推進していく
 持続的営農のため集落営農も含めて法人化の必要も考えられる
 年代別などでそれぞれが取り組可能な活動を模索して分担していく



ホームページのトップ タイトル



癒しのスポット サルビアの植栽地

(参考：体制整備構想(案) 添付資料)

体制整備構想(案)の作成状況報告

- ・ 日 時： [平成21年4月27日](#) [午後7時00分 ~ 午後9時00分](#)
- ・ 場 所： [沢新田公民館](#)
- ・ 参加人数： [16名](#)
(内訳： 農業者等 [8名](#)、 非農業者等 [8名](#)、 子供・高齢者 [2名](#))
(うち女性 [0名](#)) (うち女性 [1名](#)) 65歳以上



組 織 カ ー ド

平成 21 年 7 月 1 日 現在		組織番号		2060065217			
組 織 名	さわしんでんちいきをまもるかい			交 付 対 象 面 積			
	沢新田地域を守る会			共同活動 (開始年度: H19)			
活 動 場 所	山形県東田川郡庄内町沢新田			田	畑	草地	計
				14,527a	229a	0a	14,756a
保 全 対 象 の 農 業 用 施 設	開水路	パイプライン	ため池	農道	営農活動 (開始年度: H21)		
	32.3 km	0.0 km	0 箇所	14.4 km	水稻		計
構 成 員	個 人	農 家	非 農 家	計	5,533a		5,533a
		40 戸	46 戸	86 戸	交付金	基礎20万円/年・先進332万円/年	
	団 体	男	女	計	内65歳以上116人 (33.1%)		
		177人	173人	350人			
		団 体 数	自治会、生産組合、老人クラブ、女性の会、消防団、PTA、JA、土地改良区				
		8					
共 同 活 動	基 礎 部 分						
		遊休農地の発生状況把握		開水路の草刈り		農道の砂利補充	
共 同 活 動	農 地 ・ 水 向 上 活 動						
		開水路の機能診断		年度活動計画の策定		異常気象後の見回り	
共 同 活 動	農 村 環 境 向 上 活 動					位置図	
		施設への植栽 (景観形成)		啓発・普及 広報発行・HP開設			
営 農 活 動	営 農 活 動						
		浅水代掻き		特別栽培米穂肥指導			
備 考		施設点検・機能診断・施設の補修、景観形成と広報に力を入れています。					